

3/9 (水) 中国新聞 小冊

(第三種郵便物認可)

スマホかざし観光案内

広島大 福富でICタグ実験

広島大(東広島市)の総合博物館は、スマートフォンをかざすだけで日英2カ国語の地域情報にアクセスできるICタグ活用の実証実験を東広島市福富町の3カ所で始めた。博物館本館にとどまらず

地域全体を「ユニシアム」ととらえる活動の1環。情報通信技術(ICT)の効果的な活用策を探る。

タグは縦4・5センチ、横4センチのプレート型。道の駅湖畔の里福富(久芳)には交流館入り口近くに

「道の駅」「福富ダム」「アクアフエスタ」の3枚を取り付けた。NFCという規格に対応したスマホをかざすと

ウェブサイトが表示され、写真と説明文を見ることができ、非対応の場合、QRコードを読み込めば表示される。福富ダムの例では、建設までの経緯、事業

費、周辺整備の概略など約千文字分の説明を読むことができる。現地の案内板などと比べ、多くの情報を伝えられ、さまざまな言語に対応できるメリットがある。

ほかは、福富物産しやくなげ館(下竹仁)上ノ原牧場カドール(上竹仁)に設置。シヤクナゲが美しい「ク

ロボヤ峡」などを取り上げている。

(金山努)



スマホで簡単に情報にアクセスできるICタグ(右下)